

## 家庭菜園での栽培ポイント

### 1) 畑の準備

一連の作業は、施肥、定植の2週間前に行なう。

#### 作業手順

- ①日当たり良く、排水の良い場所を選ぶ。
- ②畑の整理(前作残渣、雑草根塊を整理)
- ③土改資材等の撒布(堆肥1~2kgほど、苦土石灰100~150g、燐りん50g/㎡などを入れる)
- ④資材を混入するように、全体を耕起する。

耕起の深さは  
15~20cmほど

#### 追肥のやり方

- ①時期: 春の茎立ち期頃(地面を這うように生育していた苗が、上向きに生長を始める時期)から幼穂形成期。
- ②作業: 株元ではなく畦の肩~畦間に肥料を置く。軽く中耕するようにして培土する。
- ③追肥量: 化成肥料(3要素成分各8~10%)なら20~40g/㎡など。

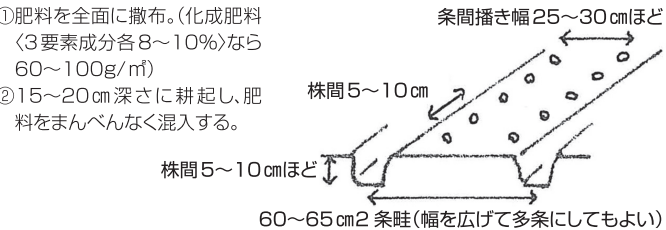
### 2) タネの準備

タネはベンレートなどの殺菌剤や温湯消毒などにより、種子消毒を必ず行なう。

### 3) 施肥・畦づくり、播種

元肥は全面全層施肥とし、下図の通りに畦づくりする。排水のよくないところ、滞水の心配なところはさらに高畦にする。播種にはいろいろな方法があるが、家庭菜園では、下図のようにする。

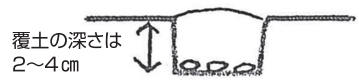
#### 施肥・畦づくり図



- ①肥料を全面に撒布。(化成肥料(3要素成分各8~10%)なら60~100g/㎡)
- ②15~20cm深さに耕起し、肥料をまんべんなく混入する。

#### 播種のポイント

播種は、平均気温が12~13℃ほどになってから1株当たり2~4粒を播く。



### 4) 追肥、管理

間引き: しない。  
ムギ踏みと土入れ: ムギ踏みは、霜柱・凍上による根の切断を防止し、茎数を増やし、倒伏防止の効果もある。秋から早春にかけて2~3回ほど行なう。  
土入れは、株間に土を入れる作業(細かくした土を、株の上からばらまくこと)で、土壤水分のいたずらな逸散や凍上を防止するとともに、倒伏を防止する効果がある。

追肥、中耕・培土: 追肥は穂数を増やし多収につながるが、やりすぎると過繁茂になり倒伏しやすくなるがあるので、適正に行なう。地域により回数や施肥量は異なるが、まずは次のように行ない、結果を見て次年度以降は工夫していく。

### ミナミノカオリ

【出穂10日後の実肥(6kg/10kg)により  
パン用として適性な蛋白質含量を確保】

除草: 雑草が発生しやすい。播種~発芽前の除草剤路用が効果的である。これに、上に述べた中耕・培土をしっかりやるのがよい。抜き草も適宜行なう。

倒伏防止: 品種により、また過度の密植や多肥によって発生しやすい。これらを考慮して生育を頑健にし、中耕・培土を適正にして株元をしっかり支えるようにする。小規模の場合には、支柱を立ててヒモなどで軽く囲うようにする方法もある。

### 5) 収穫から調整、保存

収量は300~500kg/10aほど、また百粒重は2.5~5.5gである。  
収穫適期: 適期は全株の穂が黄金色になり、穂首の部分も黄色くなった頃で、粒に爪を立てると蟻状になっている。このときの望ましい粒の水分は25%ほどである。開花後では45~55日ほどである。  
収穫(刈り取り)作業: 家庭菜園では、地際から少し上部をカマなどで刈り取り、ひとつかみずつ束ねる。  
乾燥の方法: 刈り取り後、少し地干してからか、すぐに乾燥架などにかけて乾燥する。  
脱穀の方法: 乾燥のあと、脱穀する。脱穀機がよいが、少量の場合は、棒などで叩いたり、手で揉んだりする。  
調整の仕方: 唐箕選などにより、ゴミや夾雑物を除去する。必要に応じて、シートの上などで天日で仕上げ乾燥する。

十分に乾燥したものを冷涼ないしは低温下で保存する。子実水分は少なくとも14%、できれば12%ほどに乾燥したものを、相対湿度で50%以下・温度で10℃以下を目指した条件下の容器で保存する。